第５章　現金預金①

５－１　当座預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金の内容を理解しよう！

②　小切手がどのようなものか理解しよう！

③　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

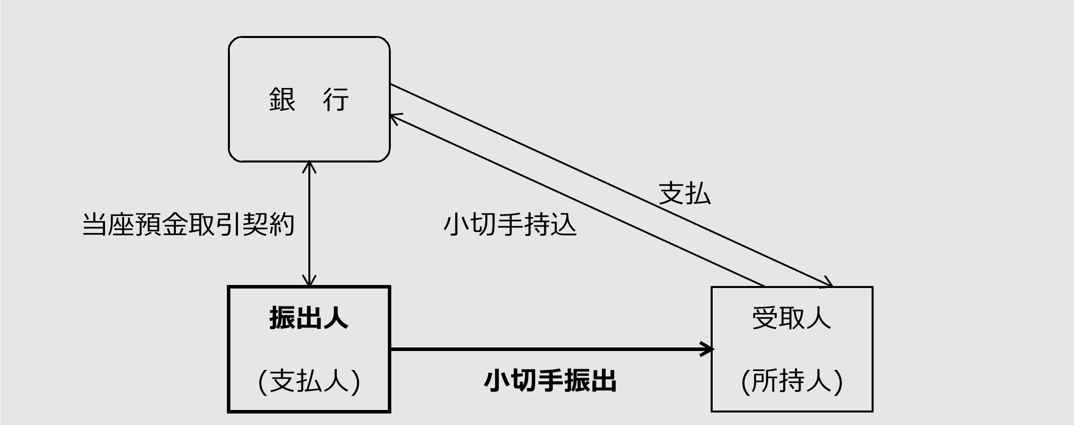
「当座預金」勘定（資産）

（１）当座預金とは？

預金には普通預金、定期預金など様々な種類がありますが、全商簿記３級において重要なのは、**当座預金**です。

当座預金は決済用の預金といわれ、利息が付かない点と預金を引き出すときに**小切手**を使用する点が特徴です。当座預金については「**当座預金**」勘定（**資産**）で処理します。

小切手とは、振出人（支払人）が小切手に記載されている金額を受取人（小切手所持人）に支払うことを約束する証券です。小切手を振り出した人がお金を支払い、小切手を受け取った人は小切手を指定の金融機関でお金に換えることができます。また、小切手を受け取った人はその小切手を支払手段として他人に渡すこともできます。



（２）当座預金の処理

① 当座預金口座に預け入れた時

当座預金口座に現金を預け入れた場合、当座預金という資産が増加するので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－１　**現金1,000円を当座預金口座に預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**1,000**	**現　　　　　金**	**1,000**

② 小切手の振出

小切手の振出時にはまだ実際の銀行の当座預金口座から預金が減少していませんが、後日、小切手が持ち込まれたら当座預金口座から引き落とされるので、あらかじめ当座預金という資産を減少させておくため「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－２　**Ａ商店から商品200円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**200**	**当座預金**	**200**

③ 小切手の決済

小切手を振り出した時に「当座預金」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳は行いません。

例題５－３　**当店振出小切手200円が銀行に持ち込まれ、銀行はＡ商店に支払った。**

仕訳なし

④ 自動引き落とし

当座預金という資産が減少しますので「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－４　**水道代100円が当座預金口座から引き落とされた。**

水道代は「水道光熱費（すいどうこうねつひ）」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
水道光熱費	**100**	**当座預金**	**100**

５－２　現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「簿記上の現金」の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

（１）簿記上の現金

一般に現金とは硬貨及び紙幣という通貨（つうか）を指しますが、簿記上は金融機関ですぐに換金できるもの（**通貨代用証券**（つうかだいようしょうけん）といいます）も「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。通貨代用証券には様々なものがありますが、ここでは、他人振出小切手（たにんふりだしこぎって）を学習します。

（２）他人振出小切手の処理

他人が振り出した小切手を受け取った場合、銀行に持ち込めばすぐに換金できます。そこで、簿記上は他人振出小切手を「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。

① 他人振出小切手を受け取った場合

現金という資産が増加しますので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－５　**商品2,000円を売り上げ、代金はＡ商店振出小切手を受け取った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　金	**2,000**	**売　　上**	**2,000**

② 受け取った小切手を当座預金口座に預け入れた場合

当座預金という資産が増加しますので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理し、また、現金という資産が減少しますので「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－６　**昨日受け取ったＡ商店振出小切手2,000円を当座預金に預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当　座　預　金	**2,000**	**現　　金**	**2,000**

③　他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合

他人振出小切手を受け取り（現金の増加）、直ちに当座預金に預け入れた（現金の減少）場合、現金の増加及び現金の減少として処理しないで、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－７　**商品2,000円を売り上げ、代金はＡ商店振出小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**売上**	**2,000**

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

現金	2,000	/	売上	2,000
当座預金	2,000	/	現金	2,000

④　他人振出小切手を支払手段として他人に渡した場合

他人振出小切手を受け取った時は「現金」勘定（資産）の増加として処理しますので、他人振出小切手を他人に渡して減少した場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－８　**Ｂ商店から商品2,000円を仕入れ、代金はＡ商店振出小切手で支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**2,000**	**現金**	**2,000**

<小切手の処理のまとめ>

①　小切手の振出　＝　当座預金の減少

②　他人振出小切手の受取　＝　現金の増加

③　他人振出小切手の受取　＋　直ちに当座預金に預入　＝　当座預金の増加

④　他人振出小切手の譲渡　＝　現金の減少

５－３　小口現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「小口現金」勘定（資産）

（１）小口現金とは？

会社では文房具を購入するなど日常業務で発生する少額の支払に備えて、各部署に少額の現金を用意しておき、この現金で支払を行うことがあります。この少額の現金を**小口現金**といいます。小口現金は「**小口現金**」勘定（**資産**）で処理します。

前渡する金額を一定とする**定額資金前渡制度**（**インプレスト・システム**ともいいます）と必要に応じて随時補給する制度がありますが、通常は、定額資金前渡制度が採用されます。

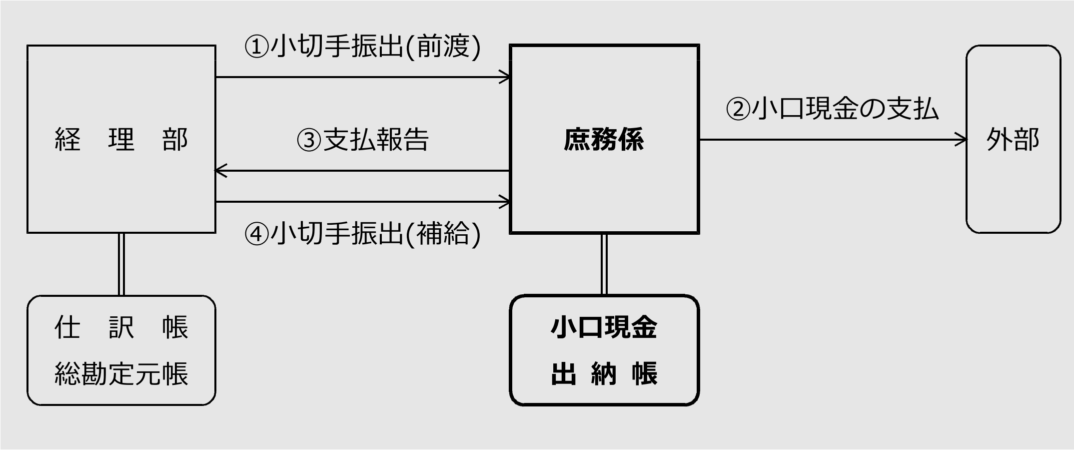
定額資金前渡制度は以下の流れで行われます。

① 経理部（または会計係）は庶務係（または、小口現金係、用度係、小払係）に少額の金額を渡します。

② 庶務係は日常の少額の諸経費を小口現金から支払います。そして、その支払明細を**小口現金出納帳**に記入します。なお、小口現金出納帳は小口現金の支払明細を記帳する補助簿（補助記入帳）です。

③ 一定期間ごとに庶務係は経理部に支払報告を行い、それに伴って経理部は仕訳を行います。仕訳を行うのは、庶務係でなく経理部なので注意して下さい。

④ 経理部は庶務係に小口現金を補給します。



① 小口現金の前渡

例題５－９　**１月１日 小口現金2,000円を小切手を振り出して庶務係に前渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
小　口　現　金	**2,000**	**当　座　預　金**	**2,000**

② 小口現金の支払

例題５－10　**庶務係は１月９日に電車代300円、１月15日に切手代150円、１月21日にお茶菓子代100円、１月25日に切手代50円を小口現金で支払った。**

庶務係が諸経費を小口現金で支払っても、経理部は報告を受けていないので、仕訳は行いません（仕訳を行うのは経理部です）。庶務係は小口現金の使用明細を以下のように小口現金出納帳に記入します（記入の仕方は［16－３］で学習します）。

小 口 現 金 出 納 帳

受　入	日	付	摘　　要	支　払	内訳 交通費	内訳 通信費	内訳 雑　費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合　計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			
2,000	2	1	前月繰越				

③ 小口現金の支払報告

例題５－11　**庶務係から１月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子代100円）を受けた。**

経理部は庶務係からの支払報告に基づき、使用した分は適切な勘定で処理します。また小口現金という資産が減少したので「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。なお、電車代は「交通費（または、旅費交通費）」勘定（費用）、切手代は「通信費」勘定（費用）、お茶菓子代は「雑費（ざつひ）」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
交　通　費	**300**	**小　口　現　金**	**600**
通　信　費	**200**		
雑　　　費	**100**		

④　小口現金の補給

例題５－12　**１月31日　小口現金を補給するため庶務係へ600円の小切手を振り出した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**600**	**当座預金**	**600**

⑤　小口現金の支払報告を受け、直ちに小口現金を補給した場合

例題５－13　**庶務係から１月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子100円）を受け、直ちに小切手600円を振り出して小口現金を補給した。**

支払報告を受けたと同時に小切手を振り出して補給した場合、小口現金の減少と小口現金の増加が同額であるため、「小口現金」勘定（資産）を用いずに処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
交通費	**300**	**当座預金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

交通費	300	小口現金	600
通信費	200		
雑費	100		
小口現金	600	当座預金	600

（２）小口現金で使われる勘定科目

小口現金の主な支払内容と勘定科目は以下のとおりです。

勘定科目	支払内容
交通費	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代など
通信費	切手代、はがき代、電話代など
水道光熱費	水道代、電気代、ガス代など
消耗品費（しょうもうひんひ）	文房具代、コピー用紙など
雑　費	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目

第５章　現金預金①　問題

問題5-1　以下の取引に関して、(1)仕訳を行いなさい。また、(2)当座預金勘定への転記を行いなさい。なお、日付は省略すること。

①　当座預金口座を開設し、現金80,000円を預け入れた。
②　広告料2,000円の支払いのために、小切手を振り出した。
③　商品40,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取った。
④　商品30,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。
⑤　商品25,000円を仕入れ、代金は得意先振出の小切手で支払った。
⑥　商品50,000円を売り上げ、代金は送金小切手を受け取った。
⑦　小口現金係から今月の支払報告（交通費1,000円、通信費1,500円、雑費400円）を受けた。
⑧　小口現金を補給するために、小口現金係へ2,900円の小切手を振り出した。

第５章　現金預金①　答案用紙

問題5-1

(1) 仕訳

	借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

(2) 当座預金勘定の記入

当 座 預 金

日付	摘　要	借　方	日付	摘　要	貸　方
省略			省略		

第５章　現金預金①　解答解説

問題5-1　**解答**

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	80,000	現金	80,000
②	広告料	2,000	当座預金	2,000
③	現金	40,000	売上	40,000
④	当座預金	30,000	売上	30,000
⑤	仕入	25,000	現金	25,000
⑥	現金	50,000	売上	50,000
⑦	交通費 通信費 雑費	1,000 1,500 400	小口現金	2,900
⑧	小口現金	2,900	当座預金	2,900

(2) 当座預金勘定の記入

当座預金

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
省略	現金	80,000	省略	広告料	2,000
	売上	30,000		小口現金	2,900

問題5-1 **解説**

(1) 仕訳

① 当座預金口座に預け入れた場合、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

② 小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

③ 他人振出小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

④ 他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合、厳密には「現金」勘定（資産）の増加及び減少となりますが、その処理を省略し、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑤ 他人振出小切手を支払手段に用いた場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥ 送金小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑦ 小口現金係から小口現金の支払報告を受けたときに、「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧ 小口現金を補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。

(2) 当座預金勘定の記入

仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。